

丙第三百廿拾号

千葉 行徳 松戸

本更津 貞元

郵便局

過般來各地ニ於テ節列刺病傳播ノ景況有之
ニ付豫防ノ夕ノ他局ヨリ來達ノ郵便物ニ消
毒法施行之義本年九月中相達置負知逐日該
病撲滅ニ帰シ候ニ付テハ尔後右消毒法施行

之義本年九月達候事

但消毒法施行ノ夕ヲ相用候茶價及炭代等
ノ義ハ店舗受取証相添調書可差出事

千葉縣令 榮原 和代理

明治十年三月廿五日

千葉縣大書記官 岩佐 為春

丙第 三百五拾貳號

沿海各區

區長
戶長

別紙丙第 九號ヲ以開拓使ヨリ達有之候條得其意
右船漂着候歟或ハ所在見聞候ハ、該地警察署又
ハ分署へ可届出旨沿海村々へ可相達候此段相達
候事

明治十年十二月廿六日

千葉縣令柴原和代理

千葉縣大書記官岩佐為春

丙第九號

沿海府縣

長濱間

一漁艇 但車權既ツ共

右ハ當使管下後志國島牧郡江泥邊村平民石塚徳太郎所有ニテ同人外一名乗組本年十月十九日圖所出艇ノ儘行方不相知旨届出候ニ付自然右船漂着候歟又ハ所在及見聞候ハ、速ニ當使ハ可届出此旨相違候事

二

明治十年十二月十四日

開拓使長官黒田清隆

丙第 三百五拾三號

沿海各區

區 長
戶 長

和歌山縣下紀伊國海部郡和歌山港ニ於テ去ル明
 治六七兩年間實施ナシタル殘波費爲消却來ル十
 一年二月一日ヨリ同十六年一月三十一日マテ滿
 五ケ年間諸船及ヒ樁筏入港錢徵收ノ備内務省
 ノ許可ヲ得施行ノ趣入港錢取立規則相添ヘ這般
 同縣ヨリ照會越後條以來同港ヘ各船舶其外入津
 ノ間ハ別紙規則ノ通出錢可致冒船持主及ヒ材木
 竹商業ノ者ヘ無洩告知方取計フヘ此段相違候
 事

千葉縣令 柴原和代理

千葉縣大書記官 岩佐爲春

明治十年十二月廿六日

入港鑛取立規則

日本形鑛

一 五拾石積以內 一艘 = 付 金壹錢五厘

但漁業船ヲ除キ遊漁船及ヒ荷積船ニ限ル

拾石 = 付

一 五拾石積以上 貳百石積以內 金五厘

拾石 = 付

一 貳百石積以上 五百石積以內 金三厘七毛五糸

拾石 = 付

二

一 五百石積以上 金貳厘五毛

西洋形船

一噸 = 付

一 八噸以上 三拾噸積以內 金三厘三毛六糸

一噸 = 付

一 三拾噸以上 七拾五噸以內 金貳厘五毛貳糸

一噸 = 付

一 七拾五噸積以上 金壹厘五毛六糸

一床 = 付

一 材木竹等筏物 金貳錢

丙第三百九拾四号

第三四五六七
七八九十大區

區長
戶長

水揚本ノ儀明治八年十月^{十四}縣廳丙第貳百九拾
七号連ニ照準乘^此明治十一年三月中旬旬伐採
可相成束數有無調査可差出旨已内無漏相違
大區扱所^ニ於テ取繕^ノ同年一月廿五日限無
滯滞可差出後此段相違復事

千葉縣令 深原和代理

明治十年三月廿六日 千葉縣大書記官岩佐為春

丙第百五拾五号

第四大区

区长

全大区四小区

户长

今般其大区五小区上總國陸院即奈良輪村、
本更津警察署奈良輪分署ヲ設置シ受持区画
左之通相定候余可得其意候以段相違候事

明治十年十二月廿七日

千葉縣令 茶原和

奈良輪分署受持画

第四大区、四

四小区 五小区

丙第百五拾六号

第四大区十一十二小区

十九年四月一七九号以下十九年四月十九号

六月二十日より解禁

戸長

該区内小櫃川上流ニ生育スル鮎魚該川所町
村於テ晩春之頃稍一二寸ニ至ルノ鮎魚ヲ毎
年捕獲致シ後越之知元來該魚ハ一歳ニシテ
生長スルモノニテ其氣旬タル六七月以降ハ
九月迄ヲ最上トス且該魚ハ九一ヶ月ニ一寸

程ツ、生育スルモノニ付之ヲ六月以降ニ捕
獲スルハ其大小ノ差違アル而已ナラズ利
益モ亦幾層ノ多キニ至ル是該区内ノ幸福ト
云ヘシ依テ未明治十一年ヨリハ各自勉メテ
旧習ヲ變換シ鮎魚ノ捕獲ヲ禁シ晩夏ノ氣節
ニ至毎年捕獲許可ノ令ヲ俟テ該業ニ従事候
様区内無波可相違以改諭達候事

明治十年十二月廿八日 千葉縣令 荻原 和

丙第三百五十七号

第拾六大区拾五小区

小学校事務掛

第貳拾七番中学区内作新小学校聯区内椿村
菅沼兵衛外五拾二名ヨリ学資寄附金取消
之義願出願届食条右村寄附金ハ支々返付
可致良以既相違食事

明治十年三月廿八日

千葉縣令 津原 和

丙第三百五拾八号

第十一大区

第十二大区

区长

户长

其区内各小区域村々海岸並川筋塵芥輸入陸揚
ヶ場所、義本年縣廉丙第三百拾三号但書ヲ
以相違置負通差支無之場所ハ追テ一同ニ見
分、上可差許負余右陸揚場出願ノ向ハ略番

相添ハ来儿明治十一年一月二十日追ニ申出
候様可相違以段相違負事

但亦又場所分許可セサレ内ハ先般差許後
場所及人家道路等江隔絶ノ地ニ陸揚不
都合無之様取締可為致置負事

明治十年十二月廿八日

千葉縣令 茶原 和

丙第百五十九号

第十一大区

区长

全大区十八小区

户长

第十二大区

区长

全大区十四小区

户长

其区内江戸川筋行徳河原ヨリ国宿東京府下等へ、
長渡船取締ノ義ニ付昨九年十月廿七日相違
置旨処詮議ノ次第有之相登止自今左ノ通假
定候条得其意該取村へ無漏可相違旨以段相
違候事

明治十年十二月廿八日

千葉縣令 菅原 和

江戸川筋長渡船乗船規則

第一条

一長渡船ノ義ハ一般便利ノタメ開設セルモノ
ニ付違ニ出船ヲ要シ無謂乗客ヲシテ停息
セシムルコト無之様注意スヘシ

第二条

一出船度船ハ乗客ノ望ニ應シ昼夜何回出船ス
ルモ妨ケナシトス

第三条

一長渡船賃金ハ縣廳ノ許可ヲ得タル賃額ノ外
船中ニ於テ酒代其他ノ名義ヲ以餘分ノ金銭
申渡負義ハ嚴禁タルヘシ

第四条

一長渡船乗組ノ船頭并水主ノ本籍姓名年齡ト
モ縣廳ニ届出ヘシ

第五条

一乗客人ノ内風体怪シキカ又ハ船中ニテ如何
ノ挙動有之モノハ出船并上陸ノ前最寄警察

署及ニ巡查交番所ハ迅速報告スヘシ
但本条ノ場合ニ於テハ警察官ノ検査ヲ經
テハ上陸及出船スルヲ禁ス

第六條

一船宿ニ於テハ乗客名簿ヲ作りコレニ管轄府
縣名本籍姓名年齢及旅行先ヲ詳記スヘシ
但乗客中人相書ヲ以布達尋中ノモノ或ハ
怪シキモノ又ハ不審ト思量スルモノハ船
船ノ前最寄警察署亦ハ巡查交番所ハ密

告スヘシ

第七條

一人相書等ハ船宿並ニ船頭於テ簿記シ且常ニ
熟知イタシ置ヘシ

右之通假定後事

明治十年十二月

千葉縣

丙第 三百六拾號

第一二大區

區長

醫務取締

戶長

目今其區内虎列刺病毒漸ク消滅ニ歸ル候ニ付本年
縣廳丙第 三百三拾四號通ハ相續シ候條都テ從
前ノ通可相心得旨醫業ノ者エ可相違此段相違候
事

明治十年十二月廿八日 千葉縣令柴原 和

第五大區

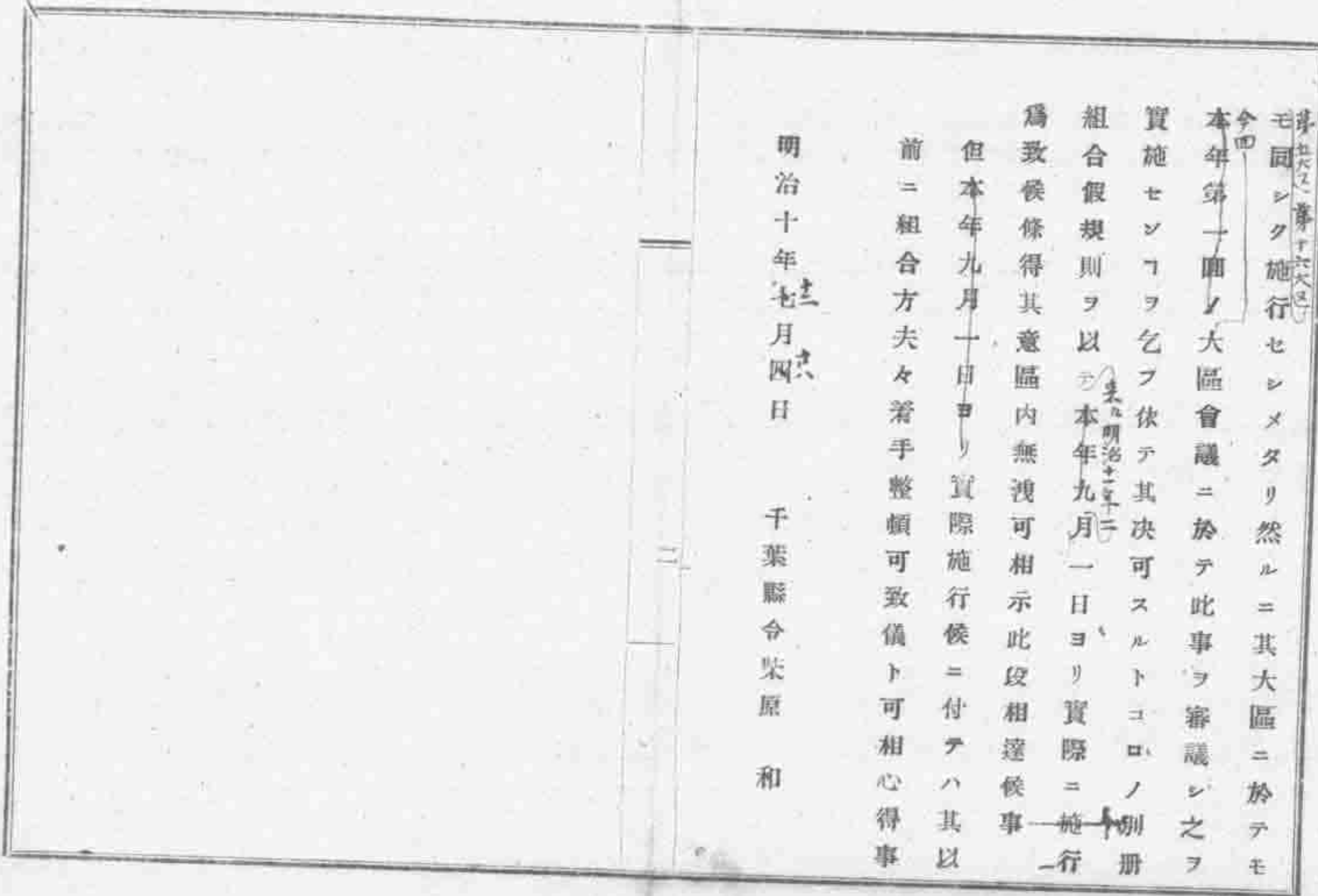
區長 戶長

邑里伍組ノ遵法廢シテヨリ隣保協和人生共存ス
ルノ道ヲ失ヒ互ニ其損害ヲ被ラシムルモ恬トシ
テ輕マサルニ至ル彼ノ葬式又ハ袴着組解等ノ祝
ニ近隣饒飲放食シ莫大ノ浪費ヲ洩耗シ其安寧ヲ
傷リ風儀ヲ亂遂ニ其身體財產ヲ併セテ亡滅スル
ニ至ル然ルニ其近隣ノモノ互ニ相告ケ相誡メテ

禍害ヲ履マシメサル様ニ常ニ注意協力スルコト太
ダ渺シ目前已レニ損失ナケレハ他日或ハ障害ヲ
被ムルアルモ一切舍テ之ヲ省ミサルナリ豈人情
ニ悖ラスヤ是教化ノ普及セサルニ職トシテ之由
ルモ彼ノ伍組ノ法廢スルカ爲ニ邑規ノ檢束スル
トコロ無キヲ以テ此ニ至ルナラスヤ故ニ逐次ニ
組合ノ法ヲ施行シテ管下人民ニ各自其義務ヲ尽
シテ隣保協和人生共存スルノ道ヲ立ルコトヲ得セ
シメントス因テ嚮キニ先ツ第八九大區内ニ差向
キ組合規則ヲ施行セシメ尋テ第七大區第六大區

本年第一團ノ大區會議ニ於テ此事ヲ審議シ之ヲ
實施セシコトヲ乞フ依テ其決可スルトコトノ別冊
組合假規則ヲ以テ本年九月一日ヨリ實際ニ施行
爲致候條得其意區内無洩可相示此段相達候事
但本年九月一日ヨリ實際施行候ニ付テハ其以
前ニ組合方夫々着手整頓可致備ト可相心得事

明治十年七月四日 千葉縣令柴原 和



組合規則并參考

第一章

第一條 組合組方及組長伍長選舉并在役年限ノ事
組合ハ每町村ノ戸數ヲ區分シテ大率十戸
内外ヲ以テ一組トナスモノトス

但寄留人ト雖モ一區ヲ占ムルモノハ其寄留地
ノ組合ニモ組入ルヘシ

第二條 組合戸數増減アルモ拾五戸以下五戸以上
ナレハ其組ヲ變更セサルモノトス

但十六戸以上ニ至ラハ二組ニ分チ四戸以下ニ

至テハ他ノ組ニ合スルカ或ハ他ノ組ヨリ繰合
スヘシ

第三條 一組ニ組長一名ヲ置キ其組内五戸毎ニ伍
長ヲ置クモノトス

第四條 組長及ヒ伍長トモ其組内公同ノ撰ヲ以テ
之ヲ定ムヘシ

但伍長ハ其五戸内ノ公撰ニテ定ムルモノトス

第五條 組長及伍長ハ其組合ノ内他ヘ寄留スルモ
ノヲ除クノ外何人ヲ限ラス戸主タルモノハ其役
ヲ帶フヘキモノトス

但一電ヲ占ムル密留人ハ其本籍子弟等タルモ
本文戸主ト同ク其役ヲ帶フヘシ

第六條 組長及伍長ハ無給タルヘシ

第七條 組長及伍長在役年限ハ三ヶ年タルヘシ尤
故無クシテ年限中ハ辭スルコトヲ得ス

但組長伍長共其年限滿ルニ至リ更ニ撰舉セラ
レテ當撰タルトキハ本文ノ如ク後々其役ヲ帶
フヘキモノトス

第二章

組長及伍長勤方并心得方ノ事

四

第八條 組長ハ官省及縣廳ノ布達并區戸長ノ告示

ヲ組内毎戸ヘ説示會得セシメ且法律及諸規則ヲ
遵守シテ遵犯スルコト無ラシムル様注意スヘシ

第九條 組内ニ死亡出產失踪人又ハ轉籍或ハ隱居
并相續縁組等アレハ組長ハ例ノ如ク届或ハ願書
ヲ作ラセ連署シテ其筋ヘ差出サシムヘシ

但育兒規則ニ掲ケタル妊娠届書モ注意シテ本
文ノ如ク連署差出サシムヘシ

第十條 組内ニ賊難ニ遭フモノアルトキハ例ノ如
ク速ニ届書ヲ作ラセ組長連署シテ其筋ヘ本人ヲ

以テ届出サスヘレ又闘争等ニテ被殺人アラハ同
斷其親戚ヲ以テ届出テ檢使ヲ受ケサスヘレ

但本人疾病其他止ヲ得サル事故アルトキハ其
事實ヲ心得タルモノヲ代人ニ立テ差出サシム
ヘレ

第十一條 組内ニ水火震災等非常ノ變ニ遭ヒタル
モノアレハ組長檢分レテ其罹災ノ本人ヨリ届或
ハ願書等ヲ例ノ如ク連署其筋ヘ差出サシムヘレ
但重大ノ事ニ係ル分ハ組長別ニ具狀シテ其筋
ヘ報告スヘレ

五

第十二條 縣廳及ヒ裁判所警察分署其他出張官員
或ハ振所等ヨリ組内ノモノエ喚狀至レハ組長速
ニ之レヲ本人ヘ達シテ出頭セシムヘレ

但本人病氣其他忌引等ニテ止ヲ得ス出頭シガ
タヤモノハ組長其容休及事故ヲ其筋ヘ具狀シ
テ代人ヲ差出サシムヘレ又他行不在ナレハ同
斷其次第ヲ其筋ヘ具申スヘレ

第十三條 組内ニ寄留人等アレハ組長ハ其戸主ニ
心附ケ寄留請人ヲ立サセ速ニ其寄留人ノ本貫姓
名等用向等ヲ書載シタル届書ヲ作ラシメ連署シ

テ其筋へ差出サレムヘシ

第十四條 組長ハ組内ヲ取締旅行人止宿等ハ第二十六條ノ通取扱帳鋪風體ノモノ止宿ヲ乞フ等ノコト組内ノ報告アラハ其旅人ノ居動ヲ探偵シテ盜賊又ハ悪者ノ見込アレハ其^{其筋}察分署^{或ハ}或ハ振所等へ具狀報告スヘシ

但何モノニ限ラス組内ノ家ニ立入り私ニ止宿スルモノアラハ注意シテ兼テ熟知スル其本人ノ親戚等ニアラスシテ其本籍不分明ノモノナレハ戸主ニ承糾シ怪鋪モノト見込トキハ本文

ノ如ク具狀報告スヘシ

第十五條 戶籍調査等アル節ハ其組内ノ毎戶番號并姓名年齢等其家族雇人寄留人ニ至ル迄詳記シタル書面ヲ組長ニ於テ第廿一條ニ載タル簿冊ヲ案シ之ヲ調整シテ差出スヘシ

但組内ニ無籍人等アラハ速ニ承糾シテ其原籍姓名年齢等ヲ書取其筋へ報告スヘシ尤其本人身ヨリノモノヨリ入籍又ハ後籍等ヲ願出ルトキハ願書ヲ作ラレメ連署シテ其筋へ差出サレムヘシ